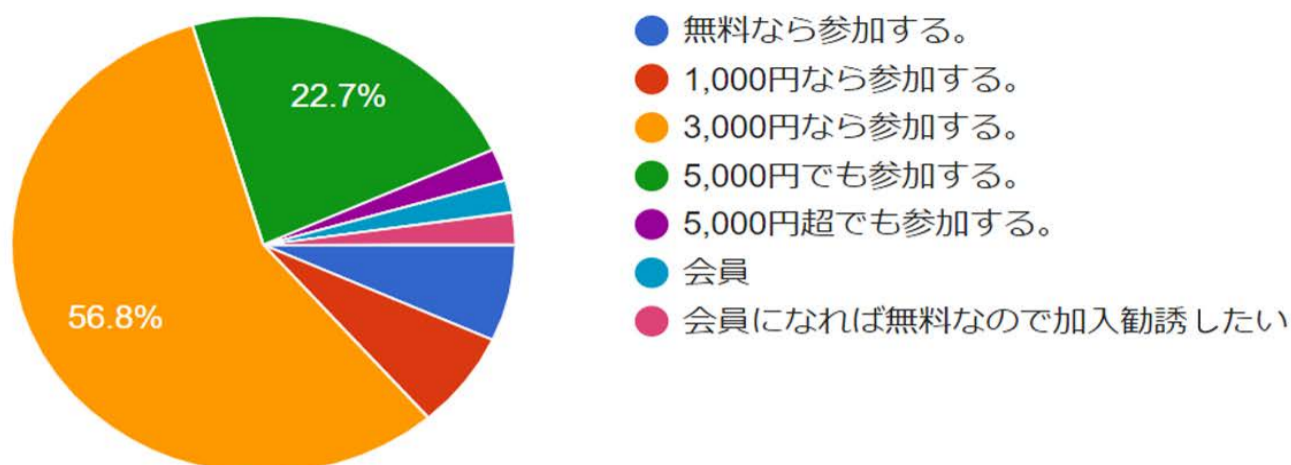


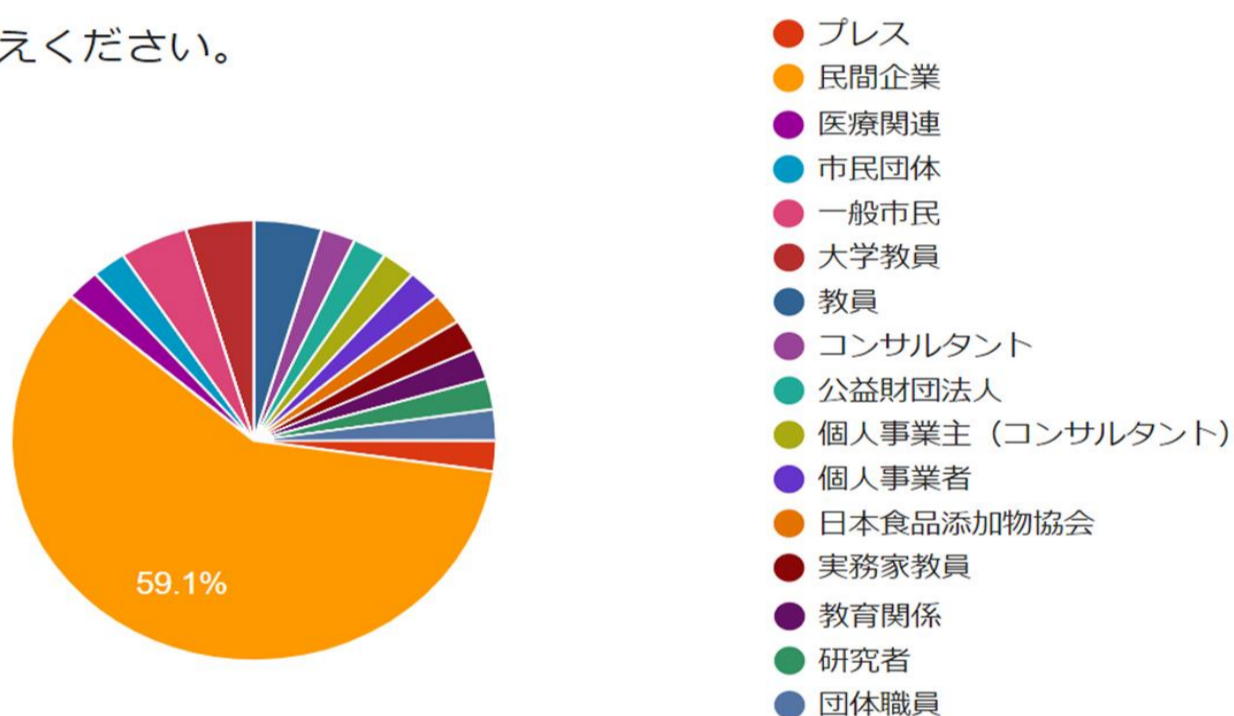
今回のフォーラムの参加費 (NPOへの賛助) についてどう思われますか？

44 件の回答



ご職業についてお答えください。

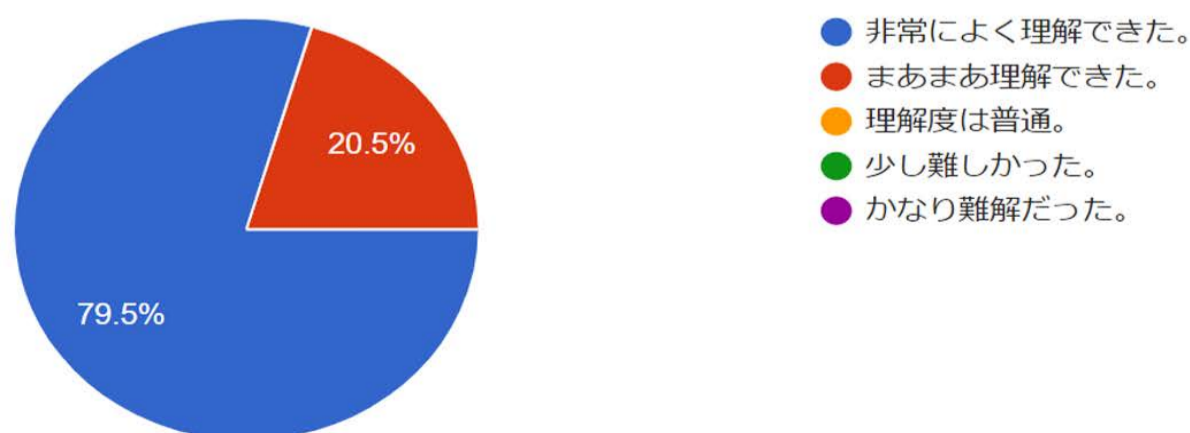
44 件の回答



① 三輪 操(日本農芸化学会JICF) 『食品添加物について正しく伝えるには』

ご講演内容の理解度についてご回答ください：①三輪 操 (日本農芸化学会JICF) 『食品添加物について正しく伝えるには』

44 件の回答



学生への授業や講演での工夫について触れられており、一般消費者のリスクリテラシー向上は時間や手間が掛かってもきちんと実現できるのではないかと感心する内容でした。

リスクコミュニケーションの難しさをわかりやすくお伝えいただき、大変参考になりました。身近な題材を使って自分事として考えてもらうということが大切。という事例はとても参考になりました。実践してみたいと思います。

事前配布資料と当日発表内容がかなり変わっていたので戸惑いました。

私の子供が小学生の頃(15年ほど前になります)の参観日の話です。たまたま添加物についてのディスカッションの授業でした。先生が、「添加物は体に良くないから、使っていない食品を選びましょう。」と当たり前のように言っているのを聞きました。「添加物は、安全性をきっちり調べてあるから、普通の食材よりずっと安全だ。」と教えるべきでしょう。依頼、子供のころ間違った情報を刷り込まれては、困った状況は変わらないと思いつけております。海外先進国ではどのように教育されているのでしょうか？
一般の方への伝え方について非常に共感できました。ありがとうございます。当社では情報発信は私達マーケティング部が担いますが、研究部門は、科学的に正確である事にこだわり、学術的な用語を使って修正を入れてくることがあります。そのあたりについて消費者とのコミュニケーションの難しさを経験から伝えていますが、客観的に理解するためにポイントを更にご教示いただきたいと感じました。ベネフィットを伝え続ける事は実施していきたいと思っております。
食品添加物として指定される条件の解説が科学的・数値的説明でないのが判り易く多くの人に安心を与えられると思います。消費者の多くはズルチン・チクロ・サッカリンを知らない世代です、むしろ現在使われているスクラロース・アスパルテーム等の甘味料の解説が聞きたかった。亜硝酸塩の安全解説は摂取後の体内の変化プロセスの具体的な説明はまさに食品の安全と安心を科学しています、判りやすく良かったです
先生の講演で出てきた著書非常にわかりやすく、参考にさせていただいております。今回お話しを聞いて添加物について話をする際のポイントが整理できました。
資料がとても分かりやすかったです。添加物について説明する際の参考にさせていただきます。
西島先生と被る部分が多かった。またこれまでの議論と同じ内容で目新しさに欠けていた。
伝えるために、身近な事例に置き換えたりクイズなどを活用されていることを参考にさせていただきます。
たいへんわかりやすいお話と資料でした。
一般の多数に専門知識を伝えることも学問の対象かと。
相手によって話し方を変えるのは重要。
大変参考になりました。大学で食品添加物について講義をする際に、参考にさせていただきます。どうもありがとうございました。
玉ねぎのお話なるほどと感じました。否定することや考えを切り捨ててしまうことでは共に進めない、事前アンケートは回答内容の受け取り方に注意が必要でしょう(例えば社内研修)グループの傾向を捉えることはスマートリスクコミュニケーションの観点からも必要と感じました。学習内容やスライド大変参考になりました。食品添加物だけでなく食を様々な角度から学び考え社会に貢献することがまだ栄養士には出来ると思います。「正確に伝えることにこだわらない、何となく不安を何となく安心へ」非常に納得いたしました。もう少し三輪先生のお話し伺いたかったです。ありがとうございました。
今後添加物の取り組みについてのリスコミを考えておりとても参考になりました
食品添加物の安全性について、学生にわかりやすく伝えていらっやることがよくわかりました。社内関係者やお客様にお伝えする際に参考にさせていただきます。
リスコミでの成功例、失敗例の話がとても貴重で参考になりました。
管理栄養士は、10年ごとの免許更新時に教育が可能だが、栄養士の場合、難しいとのことでした。栄養士の方が勉強する授業の講師も添加物を悪者扱いにしているのでしょうか。この講師の方に添加物を正しく理解していただける対策を取ると良いのでしょうか
私も管理栄養士課程で食品衛生学(座学・実験)を教えているので三輪先生のお話にはとても共感できるところが多数ありました。
食品添加物についての情報提供について、論理的でわかりやすくお聞きしました。実際、私の行っている授業の内容の組み立てと非常に似ていて驚きましたと共に、再確認させていただきました。今後のやり方を考えるためにも参考になりました。
具体例、体験談が豊富で良かった。
栄養士として問題点も感じつつ学校の先生方の苦悩を大変感じました。ぜひいろいろ意見交換をまたさせていただきたいと強く感じます
畝山氏の玉ねぎの話が分かりにくいことについてどう答えたいか知りたい
ご自身の経験から、どのようなコミュニケーションに取り組んできたのかが分かりやすく語っていただき、感謝します。

② 小島 正美(元毎日新聞) 『無添加表示の犯人はだれなのか—メディアか事業者か市民団体か行政か』

ご講演内容の理解度についてご回答ください：② 小島 正美 (元毎日新聞) 『無添加表示の犯人はだれなのか—メディアか事業者か市民団体か行政か』

44 件の回答

理解度	割合
非常によく理解できた。	56.8%
まあまあ理解できた。	34.1%
理解度は普通。	9.1%
少し難しかった。	0%
かなり難解だった。	0%

メディアに元々いらっやったご経験から、メディアの傾向について解説されており大変興味深く聴講しました。
流通業者、製造者、メディアそれぞれが「求められるから」と言い、消費者は、わざわざ強調してるから「よいものだ」と思ってします。改めて「無添加表示」の罪は重いと思いました。
メディアも根本的に何かに基づいて報道している実際を感じられました。一国民としては報道を信じるのも自由なので自己で取捨選択していくことが肝要です。
何かしら利害があって情報発信にしろ研究にしろ実施されていると思う。現実に食品添加物を悪と信じて叩きたい人はいる。両論併記はもちろんだと思うが、安全情報やいい情報は伝わりにくく、危険情報は伝わりやすいという現実と向き合い、私達食品素材メーカーは安全で有効である事を継続的に発信し続けなければならないという事を改めて強く感じた。オウンドメディアの整備は基本。多くの人に知っていただく努力を継続する事ですね。1点SNSの発達により、マイノリティなのに、ノイジーな方達の意見が食品添加物の議論に反映されているようでないです。ごく一部の意見なのに、それこそ安全で受け入れていくという意見は発信されにくい傾向にあると思うので。

小島先生から多くの見解を聞き、いつも私の思いを代弁してもらい、自分の考えのバックボーンとなっています。今回は小島先生の苦戦と苛立ちを感じました。無添加表示の犯人は事業者です。某ミニスーパーで無添加のタグを貼った輸入塩サバが陳列されており唖然としました、これが実態です。無添加を謳った化粧品がテレビCMで流れています残念です
山パンさんのようなニュースになるやり方、も、ひとつ消費者に意見を伝える手段だとは感じましたが、こちらの意図しない方向の発信にならないよううまく制御できるものが不安でリスクが大きいように感じます。
小島先生のおっしゃる通り、味の素の様な大手企業主催のセミナーが今後も継続されると良いと思いました。
共感するところが多いたへん参考になった。とくに「説明に際して正確さにこだわりすぎない」「なんとなく安心というところをめざすのでよいのではないか」という指摘は、今後自分自身が説明する立場になったときに考慮に入れるべき点として覚えておきたいと思った。メディアが変な情報を発信する際には、必ずその問題をめぐる専門家間の対立があるという指摘も重要。安全と言われているものに対して、あえてそうではないかもしれないという懸念(思いつき?)を示すと注目される(さらには研究費が付く)ので、そこを狙ってくる「専門家」がいるのも事実。そこは「専門家」のソサエティも考えなければいけない。
社会的理解が進まない、納得しない人をどう説得数かが難しいので無添加表示は今のままでも良いのではないかという趣旨のコメントをされましたが、多少同感でもあります。私がこんなことを言うのと叱られちゃいますが、頭では無添加の意味がないと分かっている、心情的には、無添加に惹かれる部分もあります。
誰が困っているのか、このままではだめなのかという切り口、とても面白かったです。
マスコミはアマビエみたいに事前に概念導入すること(アマビエは防疫)に強みが発揮できるかも知れません。パフォーマンスの高い島宇宙を形成してください。「なぜ、真実が伝わらないか？」自体が編集姿勢でもいいのかも。
利害関係者がタグを組んであたるのが重要。
確かに、教員の中で、いわゆる左の方々に納得して頂くのが難しいですね。
食品添加物に対してお取引先様、職員、組合員とのコミュニケーションが足りないと感じています。前回のトリチウム水の問題も、理解を取り組まない限り東北や福島県の商品を販売したとしても真の支援につながらないと感じました。
メディアで、食品添加物の有用性を伝えていくのは簡単ではないことがよくわかりました。
問題解決に向けて数々の提言をされる、前向きな姿勢に共感しました。お話の中にヒントがあると思いましたので、自分事として取り組みたいと思います。
メディアの立ち位置が良くわかる内容でした。最後にメディアは世の動き、アクションに従うだけとありましたが、メディア担当者が共感を持てる内容の話や人材が作れたりすれば、変わると考えて良いのでしょうか。また、食品添加物を正しく知ってもらうプロジェクトを、行政、事業者、消費者団体、学者、メディアでつくり…とありましたが、きっかけがないと動きにくいと思いますが、きっかけ作りに何かアイデアがありますか。
無添加その他それから利益を得ている人に対しては、いくら説明しても考えを変えることはされない、というお話を興味深く聴きました。まさにそのような消費者の団体、政治をやっている主婦の団体が身近にあります。また、食品事業者の方の中に、無農薬、無添加信仰のようなお話を、お客様に信者様？のような方々がおのずと集まっているところがあります。そのような業者は、考えを変えると商売になりません。お客様から時には、とんでもない質問をされ、どう答えたらよいかを相談されることがありますが、元が元、相手が相手なので、そのような御商売をされると、自業自得のように逆に苦しくなってしまうのでは感じています。
(聴講できていないので、中央値にマークしました)
メディアを見ていて正しい情報を伝えてくれている専門家がいる反面センセーショナルでエビデンスもはっきりない情報を垂れ流す自称専門家とその何十倍もいてその情報で一般市民が翻弄されている状況を視聴者としても感じますし実際そういう自称専門家ごっこさんに何人も遭遇したことがあります。小島先生がおっしゃったようにこういう方にはいくら言っても全く耳を傾けず自分が正しいと疑いません。メディアの方がきちんと正しい専門知識を持っている専門家を 選択できるような手段はないのでしょうか。正しい情報が多くなればデタラメな専門家も自然と消滅していくよう感じます。
質問を通して、表に挙げておられたトリチウム水について実際データが報道されていないことをお伝えした
ご自身のお考えを歯切れよく語られていて、気持ちよく聞けました。

③ 西島 基弘(実践女子大学名誉教授) 『食品添加物の安全性と無添加・不使用表示』

ご講演内容の理解度についてご回答ください：③ 西島 基弘 (実践女子大学名誉教授) 『食品添加物の安全性と無添加/不使用表示』

44 件の回答

理解度	割合
非常によく理解できた。	54.5%
まあまあ理解できた。	38.6%
理解度は普通。	7.9%
少し難しかった。	0%
かなり難解だった。	0%

学生アンケートを踏まえて、添加物に対する消費者心理の曖昧さについているところが興味深く感じました。また「無添加」の功罪については不勉強のためこれまであまり考えたことがなかったため、新たな視点をいただきました。
食品添加物に対する消費者の誤解は、食品添加物に対する知識不足が大きいと思います。それ以上に、添加物は体に良くない＝科学は悪 といった学校教育による刷り込みの罪は大きいと思いました。自然・天然は体に優しいというのは大きな間違いです。加工食品＝手抜きという思想がまだまだ社会には強く根付いていると思います。科学の問題ではなく思想に近いものだと思うので、科学的な知識だけでは解決できない深い問題だと思いました。
先生のご講義は国の調査は信用できるがベースにありますが信用できるかは疑念があるところです。今回のコロナ問題でも有識者の総力をもってしても各国で対応はいろいろあります。後ほど数十年、数百年先に判断できるのでしょうか。
食育に関する現状と課題についての話を聞きたかった。
教育が重要である事、常々感じていましたので、整理ができとても参考になりました。栄養士、管理栄養士、家庭科の先生の話ですが、彼らは加工食品の事を教育されているわけではないと思います。家庭料理と加工食品は配合も管理条件も異なるという事を理解せず、日持ちのする食品は危ないというような思い込みがあるように思います。それは家庭料理の不衛生さや水分活性のコントロールなどの概念が無いところでの調理によりすぐ腐る事が日常であるから。手作りでも衛生的な環境にし、きちんと配合を整えれば日持ちがするようになる。このあたりの知識、教育も必要だと思いました。

添加物のベネフィット、世界の食糧不足を教へ添加物の必要性和無添加・不使用の無意味を伝道する西島先生に共感します。食品の作り立て風味維持を添加物がしている事を消費者は案外知らない。〇〇クラブ生協のように主義・信条として添加物やGMOを忌避する事業者へのアプローチは徒労です。
国の添加物に対する安全性の確認方法がよく理解できました
規制する側はしっかりと仕事をしているという主張は正論だが、文書改ざん、データねつ造の報道が相次ぐ中で、その「しっかり」に不信がもたれている。その上でのコミュニケーションのあり方について踏み込んでほしい。
消費者の添加物への理解には、やはり教育が必要だと思います。教科書の誤解を生む部分は早期の改善プラス添加物を含めた一括表示の読み方など役立つ情報が身に着くようにしたら良いと思います。
個人的には教育の問題の具体的な事例と、悪徳マスコミのつるし上げに共感しました。
日本人の科学リテラシーの劣化が起こりつつあるかも。その原因が教育なら、大変に残念な話ですが、日本は、本来は家庭教育の国なのですね。良いソフトが考えるべきかも。でも、道徳、忖度、同調性は良くても、科学は苦手かも。
アンケートは曲者。学校の教科書は正しいことを伝える重要なツール。
保健体育の先生方は、食の専門ではないので、誤解が多いでしょう。要望すれば分かって頂けることも多いのではないかと想像します。中学校家庭科は、免許外の先生が家庭科を教えることもあるので、まずは、そこが問題でもあります。学校の多忙さも、知識の更新の妨げになっていると思います。家庭科の単位数が極度に少なく、中1・2で週1時間、中2は0.5時間、高校3年間で2単位なことが多いです。決して、中学の時間数が多いわけではないです。
教育現場から変えていくという事は必須だと思います。また各省庁の連携も必要と感じています。
高校の教科書に記載されてきた内容に驚きました。教員の方への再教育はぜひ実施していただきたいです。食品添加物表示制度の検討会の時には、先生ご自身のご意見をお聞きする機会がほとんどありませんでしたが、今日はいろいろお伺いできてよかったです。「メーカーが商売のために消費者をだますことはやめてほしい」というご意見をしっかり受け止めて、社内で活動していきたいと思いました。
西島先生の少し感情的になられるところは、活動のための大事なエネルギーだと思いますので、私自身のそういう部分も忘れないようにしたいと思います。
小島さんから、食品添加物を正しく知ってもらうプロジェクトを、行政、事業者、消費者団体、学者、メディアでつくり・・・とありましたが、これについてどう思われますか。
専門の先生のわかりやすいお話と、ぐち？をお聴きできて、リスコミのご苦労についても大変共感できて、すっきりいたしました。
(聴講できていないので、中央値にマークしました)
非常に同感する話ばかりで一般の方はセンセーショナルな情報のほうが正しいと理解してしまう事実。企業の品質管理の人間でも正しいことを知らないことが多く、無添加が全て良い風潮。ただ添加物の承認について助言を求められる私の立場としては市場の購買意欲の傾向が無添加が好まれるので添加物について問題ないと伝えつつも市場の傾向は無視できないというジレンマです。いくら良いものでも売れなければ民間企業は成り立たないので悩みどころ満載です。添加物の物質名だけでなくこの物質が何をどういう効果のために使っているのか(菌抑制目的など)というのを食品包装に表示することで認知しやすいのかと感じます
ハウリングが多く聞きとりにくかった。リスクコミュニケーションの原則と手法の進化について勉強されると良いのではないかと。

パネルディスカッション『食品添加物のリスコミ～無添加／不使用表示の弊害とは～』
進行:山崎 毅(SFSS)、パネラー:各講師

ご講演内容の理解度についてご回答ください：④パネル・ディスカッション（進行：SFSS山崎）『食品添加物のリスコミ～無添加／不使用表示の弊害とは～』

44 件の回答

理解度	割合
非常によく理解できた。	47.7%
まあまあ理解できた。	36.4%
理解度は普通。	13.6%
少し難しかった。	2.3%
かなり難解だった。	0.0%

オンラインということで、運営にハードルもあったかと存じますが、積極的にフロアの声を変えられており、アクティブな議論を展開されていたと感じました。
某大手スーパーの責任者にGMOについて聞いたら、消費者さえ受け容れれば扱うに吝かでない。その関係は流通とメーカーとの関係にも続きます。そのように窮極の原因にされる消費者にとって、信頼するオソリティーは(今回の参加者の常識と違い)政府でも専門家でもなく、今まで教わってきた学校の先生です。先生を変えるのは、意見が出ていた「文科省に言う」程度で済むことではない。学習指導要領はほぼ10年サイクルで改訂されるが、それを替えるにもタイミングがあり、そのタイミングで教科書検定官に意見を言えば済むことでもない。執筆陣にも教科書会社にも働きかける必要があり、ほぼ15年くらいの賢い戦略のもとで長期間結果の見えないまま努力を続けるしかない。それは農薬、添加物、GM食品のいずれにも言えることです。各教科科目には、教員の全国組織がありますので、そこにも働きかける必要があります。
新聞記者です。西島先生からメディアの罪を率直にご指摘いただき、自省するところも多くありました。一方でメディアがきちんと報道することへの要求も強いと感じました。ただ、一般紙の立場からすると、皆さんが思われている以上に「なぜ今この記事を書くのか」というタイミングを気にします。なので、個人的には「何らかの“動き”がほしい。動きがあればどんどん記事にできるのに」と常々思っております。小島さんもお話になっていましたが、何もニュースがない状態で“論”だけの記事は書きにくいし、載りにくいです。そういう意味では昨年の山崎製パンさんの発表は“動き”の一つでした。ただ、山崎製パンさんがあれだけ頑張っても1企業だけの動きだと、正直ニュースバリューはそれほど大きくはありませんでした。政治・経済など日々のニュースのなかで、それと伍していくインパクトはなく、“話題もの”として記事にするのが精いっぱいでした。ですので、できれば業界が一丸となって大きなニュースを仕掛けてほしいです。たとえば「100以上の食品関連の業界団体が一斉に『無添加表示禁止』を申し合わせた」などの動きがあればストレートニュースにできる可能性は高いです。さらに、一つ大きなニュースがあれば、それをフックとして続報の形で、ああでもない、こうでもない、という“論”の記事が書きやすくなります。セブン・イレブンさんが前向きな動きを検討されているようですが、それが各社を巻き込む形で大きな動きになれば、と思います。
学生さんには教育という場で新しい情報を伝えることが可能ですが、学校教育を終えた生活者にはアップデートの機会がありません。どのようにして最新の知見を知ってもらうかは「食品添加物」に限らず課題だと思いました。
発言の機会をいただき誠にありがとうございました。大変勉強になりました。食品加工技術のプロの方がディスカッションに加わっているととても面白かったらうと感じました。ベネフィットの話になったので、まじめな企業の無添加実現のための設備投資や、賞味期限短縮の現実などをお話しいただける方がいらっしやると現実とコミュニケーションの難しさがより鮮明になると感じます。例えば山崎製パン様等。

無添加・不使用表示の弊害論は安全・安心・ベネフィット論と表裏一体です。食の安全と安心を社会に発信する事の難しさを改めて感じました。添加物への理解を広げるのは中高生へ教育が必要です、若い世代が中高年になるまでは時間がかかると感じました。
セブンイレブンさんが無添加表示をするに至った経緯がわかりとても勉強になりました。自分の質問を取り上げていただいたにもかかわらず、どんな質問をしたか、正確に覚えておりませんでしたので、失礼いたしました。質問した内容がちゃんとフィードバックされていることを改めて確認できました。
今回はいつも以上にチャットの質問が具体的でわかりやすかったです。
議論やチャットからですが、科学的リテラシーが欠けた教育やそれを利用する者が別の健康被害を生んでいないか？極端な自然志向が乳児のボツリヌス中毒を起こしたかも知れません。もちろん、氷山の一角です。だから、継続的発信や教育の縦割り打破が必要だと思います。
若いころの教育が重要と感じた。
とても良い議論を聞かせていただきまして、ありがとうございました。早急に、農水省、厚労省、文科省で意見の統一を図るようにしていただければ、と思います。
三輪先生のお話しをもっと伺いたかったです。有用性を伝えて明るい雰囲気の中で食について考える機会を設けられたらと感じました。包材を印刷する事業者も認識が薄く間違った食品表示のまま印刷されるケースがあり(包装機などシステム開発の事業者は別)食品の業界団体だけでなく食に関わる全ての団体で一緒に取り組む必要がある。
お客様に買ってもらえる商品売らなければ事業は成り立ちません 時間がかかるのだと思いますがお客様の考えを変えていくことが必要と感じています
とても良い議論だったと思います。状況認識は同じであり。お話の通り、後は突破の戦術ですね。
消費者の誤認をまねく「無添加・不使用表示」を行わないよう社内で働きかけは続けていきたいと思いますが、消費者に正しい情報が伝わっていくことにつながるニュースの発信は実施していただけるとよいと思っております。
参加者の多くは同じベクトルと持った人たちのように思いましたので、予想された展開と言うのでしょうか、広がりには少し欠けるような印象を持ちました。ニュートラルな立場の人(例えばごく一般的な消費者)も参加されて発言いただけたら、こちらの足りない部分や、新しい気付きも生まれるのではないかと思います。
無添加表示を絶対不可とするのか、ある条件を整えば可とするのか、ここがガイドラインの検討課題だと思います。一方、質問のなかに、「企業努力」の話がありました。昔の話になるかもしれませんが、IRにおいて企業が努力するのはあり得ることです。が、何に対して企業努力という言葉を使用するのか、どんな意味なのかは、個人で解釈が異なるため、定義をして使用する必要があると思いました。一概に使うと誤解されるのではと懸念を感じました。
たいへん参考になりました。
「私が頑張る」と表明されたのは三輪さんだけで、あとのお二人は結局「他セクションの頑張りに期待」を繰り返されるばかりで、これでは前進するわけがないよなあ…と残念に思いました。
多数の議論が拝聴でき大変勉強になりました。
ハウリングが多く聞き取れないので途中で退席した
メーカーの方の声などをうまく拾いつつ、リスクコミュニケーションとして、どんなことができるか議論を展開していただき、納得感が得られた。また、実践の難しさも同時に感じる事ができた。

◆今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。

食品業界の経験が浅いため、大変勉強になることばかりでした。今後、各課題を見つめる際の視座を養うために大変貴重な機会となりました。
先生方のお話はどれもおっしゃるとおりで、パネル・ディスカッションの中身についても何のストレスもなく受け入れることができる内容でした。ただ、この議論が20年前から一向に変わっていないことが非常に残念でなりません。どうすれば変えることができるのか。時間がかかっても地道にリスクミを続けていくことしかないのでしょうか。
世界的に見たNON表示フリー表示ゼロ表示についての概説をされる方を次回は入れていただきたいです。様々なものが世界的にはあり、例示 グルテンフリー、アニマルプロテインフリー、トランス脂肪酸フリー それぞれの定義が各国で違う。今後、世界の食の流通が活発になっていく際に問題になると思われます。
日曜日でオンラインだったので、やっと参加ができました。とても有意義でした。今後もオンラインを併設いただくと、遠方からでも参加できると思います。参加していらっしゃる方の所属・背景等が事前にわかっていると意見を言いやすいと思いました。はじめて参加したので、どんな方がいらっしゃるのかわからず。
無添加表示とそれが消費者に与える影響について考えるきっかけになりました。
無添加・不使用表示の弊害論は安全・安心・ベネフィット論と表裏一体です。食の安全と安心を社会に発信する事の難しさを改めて感じました。添加物への理解を広げるのは中高生へ教育が必要です、若い世代が中高年になるまでは時間がかかると感じますが。
添加物についての企業からの発信を考えていたので非常に参考になりました、ありがとうございました
西島先生以降は視聴できていませんが。時間が長すぎだと思います。日曜日の午後にあれだけの時間をとるのは難しい方も多いのではないのでしょうか。また今後は、もっと多様な講演者のお話を聞いてみたいです。
このようなたいへん興味深いテーマのフォーラムに東京から離れていてもオンラインで参加できるのはたいへんありがたいです。
トリチウムの件、恥ずかしながら原子力発電で発生、廃棄していることを知りませんでした。(通常の廃棄量に比べ)今回の福島で発生する廃棄の量も気にしなくて良いレベルなので海洋への廃棄がOKなのだと推察いたしますが、何故OKなのかということが、ニュースなどで示されていないような気がします。※前回のセミナー不参加ですみません。
当方の不備のためか、接続が途切れ途切れになってしまい、論議の全体像が把握できませんでした。後日、詳細が公表されるそうですので、しっかり復習します。「食品添加物の売上げは減少しているのか？」との質疑があったかと思いますが、弊社に関しては、食品添加物の批判による影響は少ないようです(コロナ禍による加工食品業界の売上げ減少はありますが)。
関係者が皆おかしいと思う事でも、なかなか解決につながらないのが、食品添加物への誤解だと思いました。「まずは食品添加物への一般の方の理解が変わらないと」とよく聞きますが、一般の方は(聞かれたら答えますが)それほど食品添加物に興味はないですし、取組には何か起爆剤が必要な気がします。
流通は消費者が望むからというが、消費者は流通の「〇〇不使用」に踊らされている…鶏と卵のように感じました。メーカーと食品添加物協会と、行政がタッグを組んで声を上げる必要があるように感じました。
志が高い先生方のお話をいただき、感動しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。
消費者の食品添加物への意識を変えるのは難しい。地道にやる必要がある。
オンラインは気軽に参加できるメリットが大きい反面、長時間の集中力維持が難しいと感じました。
検討会での取りまとめの話が抜けており、その中で「不使用」「無添加」への個人的な主張が前面に押し出されながらの話だったので、少々、理解に苦しむところがありました。個人の想いは理解できましたが、まずは2019年度の検討会報告書の内容を尊重すべきように思います。まずはどういう結果だったのか、消費者庁から、ご報告いただけると理解しやすかったように思います。
リモートにも慣れてきました。

とても参考になることがたくさんありました
ステーキホルダーを一堂に会したセミナーは面白いですね。企業にとって参加する価値(参加費)は十分あるかと思いました。
パネルディスカッションで、参加者からの意見も聞いていただき、ディスカッションが発展していったことは勉強になりました。次のアクションにもつなげる話になっていったので、今後に期待しております。自分もできることに取り組んでいきたいと思いました。
参加者の多くは同じベクトルと持った人たちのように思いましたので、予想された展開と言うのでしょうか、広がり少し欠けるような印象を持ちました。ニュートラルな立場の人(例えばごく一般的な消費者)も参加されて発言いただけたら、こちらの足りない部分や、新しい気付きも生まれるのではないかと思います。
ありがとうございました。結局、過去から積み上がってしまった負の遺産をコツコツ返済している状況と感じました。企業としては今儲けになる戦術を取らざるを得ませんが、時間をかけて正しい方向に進むことを期待し、行動します。
2時間半も中座せざるを得ず、失礼しました。やはり④の途中からの復帰では、「味の素フォーラム」司会時の話などを持ち込むことも出来ませんでした。
添加物の議論についてはもっと時間がほしいなと感じたのが率直な感想です。
オンラインの技術的な問題の解決が必要に思われる。「チャット」は入力できなかったので質問に記入したが取り上げられなかったように思う
パネリストの中に、製造や流通にかかわる方々に入ってもらっても面白かったかもしれません。

◆今後、食の安全・安心・リスクに係る分野で、どのようなテーマのフォーラムを希望されますか？。

塩分、糖分、脂質については、気にする消費者も気にしない消費者も両方いる一方で、WHOや各国政府が規制や指針づくりを強化しています。今後の消費者心理への影響がどう変わっていくかについて関心を持っています。
今回のフォーラムで食育の必要性を痛感しました。食育をテーマにしたフォーラムを希望します。*食育基本法とは その目的・目標/実施策/計画等 *食育の現状・実態は *問題点及び課題は *改善策は
輸出入食品の安全管理、コミュニケーション。原料原産地表示に基づく。
不安と思っている人をターゲットにするだけでなく不安意識を持っていない人達の背中を押すようなテーマ。GMO、添加物の素晴らしさを中心に安全安心を伝える為のベネフィットリスコミ
クリーンラベルについての情報が得られるもの
企業と消費者のリスクコミュニケーションについて
改正食品衛生法の中の営業許可変更への対応と食の安全・安心との関係 ※本音は、営業許可変更の行政の説明会が中止になったので、ちゃんとした説明を聞きたいということです。
添加物と購入後の品質保証、それとフードロス絡めたもの。
1.科学リテラシーの欠如と健康被害の実例、2.認知の心理学や方法論、3.海外のリスコミの状況(先進国に限定しない)
輸入食品
有機農産物の安全性について
報道などで取り上げられる機会が少ないテーマでお願いしたいです。
食のグローバル化と安心・安全、中小事業者に焦点を当てた食の安心・安全、など
既に実施されたかもしれませんが、食物アレルギーに関して、個人それぞれ異なる状況の中で、原材料の情報提供の在り方などを考えることを希望します。
ビタミン、ミネラルについて。目に見えないので、自分が適切に摂取できているかわかっていないので。
食品添加物に関する事なら興味あります。
アレルギー、添加物の表示
もっともっと、トライ&エラーの具体的事例交換を進めないと、いつまでも分析だけが続くのではないのでしょうか…。

◆食品添加物に関するリスクコミュニケーションのあり方について、どうあるべきでしょうか？。

食品添加物が嫌いという人を説得することはできないと思います。おそらく、生き方(ライフスタイル)として信念を持っておられるので。個人で頑張って実践されている方を否定することは違うと思うのです。ただ、好き嫌い「食の安全」の問題は違うので、この部分はきちんと説明をしていきたいと思っています。これからは「なぜ、食品添加物を不安に思うか」を考えると、不安に思っている人にアプローチしてみたいと思います。
正しい情報を発信し続ける、素早く対抗する必要性、継続は力なり。大手製造メーカー、流通各社のマーケティング部門の正しい理解と協調戦略について、難しいと思うが、それでも実際に売り文句を考えている人に対して、コミュニケーションしていくことが実は一番重要なのではないのでしょうか。
本日の議論で文部科学省に関する意見が出ました。教育関係者もステーキホルダーの一人として議論に交えていくのがいいと思います。
とにかく教育現場から地道な啓蒙活動が必要だと考えます
世の中は添加物を意識せずしたたかに、しなやかに生活しているファミリー層がマジョリティです(表現が悪いかもしれませんが、必ずしも所得が高くない子沢山の家族)。日常は添加物使用の商品を購入しているが、不安視する事が意識の高い女性だと勘違いしている隠れ購入者もいる。ベネフィット中心のリスコミ(ベネフィットコミュニケーション)にも注力し安全安心の背中を押す
今回のお話をきいて教科書が悪い、というのは共通認識だったようなので、まずは文科省への添加物の安全性についてのリスコミの実施、あとは各企業についてはせめて業界ごと働きかけをしていくことが必要と感じました
添加物=よくないものという認識の根元は学校教育にあると思います。自分自身もそのような教育を受けてきました。社会人になり、食品に携わる会社で品質管理を担当するようになるまで、その認識は変わりませんでした。小さい頃に刷り込まれた考えはなかなか変えられないので、教員、栄養士・管理栄養士へ正しい理解を促すことが必要だと思います。
子供の頃から植え込まれた食品添加物に対する考えは、なかなか変えることはできないのかもしれませんが。最近は加工食品などの危険を煽るYouTuberもいます。コツコツとめげずに、正しい情報を発信していかなければいけないと思っています。
食品添加物の有用性について粘り強く伝えていくしかないのでは、と感じ始めています。
弊社(理研ビタミン㈱)は、日本食品添加物協会の有力企業でありながら、化学調味料・食塩 無添加を謳った「素材力だし」なる商品を提供しているといった、変な会社です(昔ほどではないですが、社内で、添加物部門vs食品部門の拮抗があります、某取締役が、「俺は日添協の理事会で肩身が狭い」と申しておりました)。無添加表示の動向に注意していきたいとおもいます。
家庭科をうまく使って子どものころからしっかり正しい知識に触れさせるのは大切だと思いました。

メリットの面から訴求がいいと思います。また、以前言われたように、名前を変えとか。国民生活に寄与している事実を政府からも語ってもらいたいです。
消費者庁等が行っているリスクコミュニケーションは届けたい人は参加せず、成果を上げるのは難しい。もっと少人数で多面的に行う必要がある。
科学的には納得しても理性的に拒否してしまう人たちにいかに対処するかはとても難しい課題だと思いました。思い込みの強い世代への解決策はないのかもかもしれませんが、頭の柔軟な小中学生に正しい知識を提供し続けることで長期的には解消できるのかもしれない。
消費者は「安全」であることは理解の上で、「選びたい」と考えている方が多いのではないかと思います。安全だから「無添加」というよりも、そういう商品を少し高くても選ぶ自分がカッコいいから「無添加」を選んでいる方もいらっしゃるのではないかと思います。その前提で考えると、書いてあるか分からない「無添加」の表示で選ぶより、食品表示基準としての表示ルールから「/以降に何も表示されていない」＝「無添加」と選べるのが分かれば、おのずとこれら表示の必要性は変わってくるのではないかと思います(「キャリーオーバーや加工助剤は分からない」、「表面に書いてないと分からない」とおっしゃる方はいるでしょうが)。添加物表示の在り方を考えるのであれば、リスクコミュニケーションも大事ですが、まずは「表示方法・制度」についての普及啓発が大事ではないかと思います。
学校教育の是正からと思います。
若い人たちを対象に正しい情報を出していくべき YouTube channelとか使って身近なものと思ってもらうことが必要
文科省と皆の根気ですね。
行政や学校の先生を通じて食品添加物の安全性を消費者に正しく伝えていくこと、メーカーとしては無添加表示を自粛していくことを地道に続けていくのが大切だと思います。ただし、それでは時間がかかるので、本日お話しがあったように戦術をねってニュースを発信し、食品添加物は悪いものというイメージを払拭していけるとよいと思いました。
他方を批判したり、悪口を発信することがなくなるのがゴールと思っています。いろいろな食スタイルがあり、互いを尊重し合える関係を目指すべきだと思います。多様性という言葉がキーワードだと思っています。
学校での教育の影響は大きいと感じました。保護者も含めてのリスクミが必要と考えます。
SFSSさんの取り組みの方向性に、賛同します。さらなる進展を！
一般市民が正しい知識を得る方法がゲセ専門家から得る情報が大多数なことから専門知識が豊富でエビデンスもしっかりありかつ簡単に解説できる機会が必要ではないかと感じます。もしくは食品包装にこの添加物が何のために使われているのかを記すことにより日常的に正しいことが目に入るようになることも必要ではないでしょうか
相手の疑問点をまず聞き、歴史的な変遷を踏まえ過去の問題点をきちんと押さえつつどう変わったかを分かりやすく答えることが必ず必要だろう

◆今回のオンライン・フォーラムについて、ご要望や改善すべき点がありましたら、ご意見をお書きください。

全体としてとても興味深く、休憩もあったため無理なく参加できました。4番目のプログラムであるパネルディスカッションが若干長く感じました。
音声がちよっとびりびりして、ZoomやTeams に比べて疲れました。休憩は適切な時間で良かったと思います。最後一回PCが落ちました。より安定なシステムでの実施がいいと思いますが、オンラインだったので参加できたメリットもあり良かったです。
とても改善されました。
通信状態は今まで一番良好でした。進行も違和感なく視聴できました
このアンケートの選択肢に、部分的に視聴できていない場合に選ぶ「視聴していない」あるいは「その他」を加えていただいた方がよいと思います。西島先生以降は聴いていませんが適当な選択肢がなく「普通」で回答させていただいていました。
事前配布の資料が1/1サイズで大変助かりました。前回まではPDFをスクリーンショットして、1コマ分をPPTにコピペして1/1のテキストを自製したうえでプリントしてましたので。できたら表示されるものと全く同じものを希望します。
チャットの利用、待ち時間のBGMがあるといいかもしれませんね。ちなみに、背景の設定はどうすればよいでしょうか。映像OFFなので、あまり関係ないですが。ネット懇親会も面白いかも。人数が多すぎますか。
途中で講演者の音声途切れることがあった。
出来ればもう少し時間を短くしてもらえると参加しやすいです
途中で繋がらなくなる現象は改善(運営マニュアルのソフト面、ビデオをオフとか、通信負荷を減らす工夫)が必要かと。
皆さんにお会いできないのは残念ですが、オンラインは大きなメリットもあると感じました。関東圏以外のいろいろな人が参加できることで、可能性を感じています。
全体として回線が寸断されるなどなく、聞きやすかったと思います。
運営には、全く不満ありません。毎回ありがとうございます。
オンラインでの開催で色々大変かと思いますがいつもご尽力いただき感謝申し上げます。なかなか外へ出れないご時世で大変ありがたく感じております。
前記技術面での改善を望む。「チャット」は入力できなかったがなぜだろう？時間が長すぎ拘束されるのは苦手です早く終了できないか？

◆備考(SFSS事務局へのご要望・通信欄)

長時間のオンラインセミナーありがとうございました
ありがとうございました。イベント開催時に協賛等も可能です。是非お声がけください。様々本当にありがとうございます。
本日のフォーラム大変参考になりました。ありがとうございました。
グタグタと自分の思いを書きました、アンケート回答から外れごめんなさい
ありがとうございました。
来年はリアルでやりたいですね。
①三輪先生の質問欄が十分入力できないですが
いつも質も高いセミナーを企画運営頂きありがとうございます。
今回で2020フォーラムは終了ですが、次年度の運営はどのようにお考えでしょうか？オンラインだから遠方からも参加できました。どうか次年度もオンラインも同時に開催いただけませんか？どうぞよろしくお願いいたします。
いつも興味深いウェビナーをありがとうございます。
難しい状況の中、意義のある催しの開催について、頭が下がります。今後ともよろしくお願いいたします。

今後もオンライン配信は継続して実施していただきたいです。
来年度も楽しみにしています。
お疲れ様でした！
チャット欄へ色々書きすぎてしまい申し訳ありませんでした
いつもご苦労様です。